

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2251 号

Comparison of involved field radiotherapy and elective nodal irradiation in combination with concurrent chemotherapy for T1bN0M0 esophageal cancer

T1bN0M0 食道癌に対する化学放射線療法における involved field radiotherapy と elective nodal irradiation の比較

中谷 行宏 (なかたに ゆきひろ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

stage I (cT1bN0M0) 食道癌に対する標準治療は、リンパ節郭清を伴う食道全摘術であるが、手術不耐あるいは手術を希望しない患者に対しては、根治的放射線療法 (CRT) が行われている。JCOG9708 試験では、5-FU+CDDP と予防照射を行わない放射線化学療法が施行され、4 年生存割合 80.5% と良好な治療成績であった。しかし、術前にリンパ節転移を認めない症例でも、切除標本では 20% の症例でリンパ節転移が報告されている。stage I 食道癌に対する根治的 CRT において、適切な放射線照射野のコンセンサスは得られておらず、予防照射の有無と安全性および有効性との関連を検討した。

2000 年 1 月から 2012 年 12 月までに、当院において CRT を施行した stage I 食道癌 246 名のうち、5-FU 700mg/m<sup>2</sup> day1-4、CDDP70mg/m<sup>2</sup> day1 と併用して放射線療法 60Gy が施行された、重複癌のない 199 名を対象として、原発巣の上下 2cm を臨床標的体積 (CTV) とした照射野の放射線治療を受けた involved field irradiation (IFI) 群と、それに加えて所属リンパ節領域に対して 40Gy の予防照射を行った elective nodal irradiation (ENI) 群の間で治療成績を比較検討した。

IFI 群 78 名、ENI 群 117 名の 5 年全生存率は、それぞれ 90.5%、72.5% と、IFI 群の予後が良好であった。5 年疾患特異的生存割合は IFI 群で 91.6%、ENI 群で 88.3% と統計学的な差を認めなかった。食道癌以外の死亡の割合は、ENI 群は 29 例 25% であったが、IFI 群は 3 例 3.8% のみであった。多変量解析では、ENI (HR 3.63, p<0.001)、70 歳以上 (HR 2.65, p<0.001) PS=1 (HR 2.36, p=0.003) が独立した予後不良因子であった。再発後に根治目的の治療を受けた割合は、IFI 群では 12 例 75% であったが、ENI 群では 11 例 33% のみであった。

結論として、stage I (T1bN0M0) 食道癌に対する総量 60Gy の CRT において、リンパ節領域への 40Gy の予防照射の追加は、他病死を増加させ、予後を悪化させる可能性がある。